

景気の現状と今後の見通しがゆるやかに悪化傾向

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたび平成28年上期(1月～6月期)の調査結果がまとまった。

全体の景気動向としては、前回調査(平成27年7月～12月期)と比較すると、景気の現状と今後の見通しは、ほぼ横ばいの結果となった。消費税の増税が再延期となり、消費マインドの落ち込みが回避され、安堵感が広がったためと見られる。ただし、政府の推進している景気浮揚策の効果が限定的で地方の中小企業・小規模事業者にまで及んでおらず、鈴鹿市全体の景況について不透明感があり、改善する要因が乏しいため、今後も横ばいもしくは悪化となると推察される。

また、地場産業の四輪自動車関連の製造業では、平成27年2月初めから地元の自動車製造工場において減産を開始(平成26年6月時点2,180台/1日→平成28年5月時点1,500台/1日)し、現在も継続中であることが今回の調査でも影響が残っていると考えられる。一方、二輪自動車のカスタムパーツなどが東南アジアや国内ではシニア世代などに人気あり、関連企業では好況である。

(対象 1,095社 回答企業 454社、回答率41.46%)

DI値(ディフュージョン・インデックス)

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動(強気や弱気など)を知るためのものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は16.3%(前回16.8%:前年同期20.0%)、「やや悪い」「悪い」は45.6%(前回46.6%:前年同期42.9%)となった。

景気動向を示すDI値は、 $\Delta 29.3$ (前回 $\Delta 29.8$:前年同期 $\Delta 22.9$)と前回に比べほぼ横ばい、前年同期より6.4ポイント悪化している。

業種別では、製造業DI値 $\Delta 13.1$ (前回 $\Delta 19.9$:前年同期 $\Delta 19.0$)、卸売業DI値 $\Delta 26.9$ (前回 $\Delta 41.1$:前年同期 $\Delta 38.5$)、小売業DI値 $\Delta 65.3$ (前回 $\Delta 61.8$:前年同期 $\Delta 50.8$)、建設業DI値 $\Delta 15.4$ (前回 $\Delta 8.6$:前年同期 $\Delta 9.2$)、飲食業DI値 $\Delta 43.5$ (前年 $\Delta 51.4$:前年同期 $\Delta 32.3$)、サービス業DI値 $\Delta 25.4$ (前回 $\Delta 27.0$:前年同期 $\Delta 9.8$)となった。

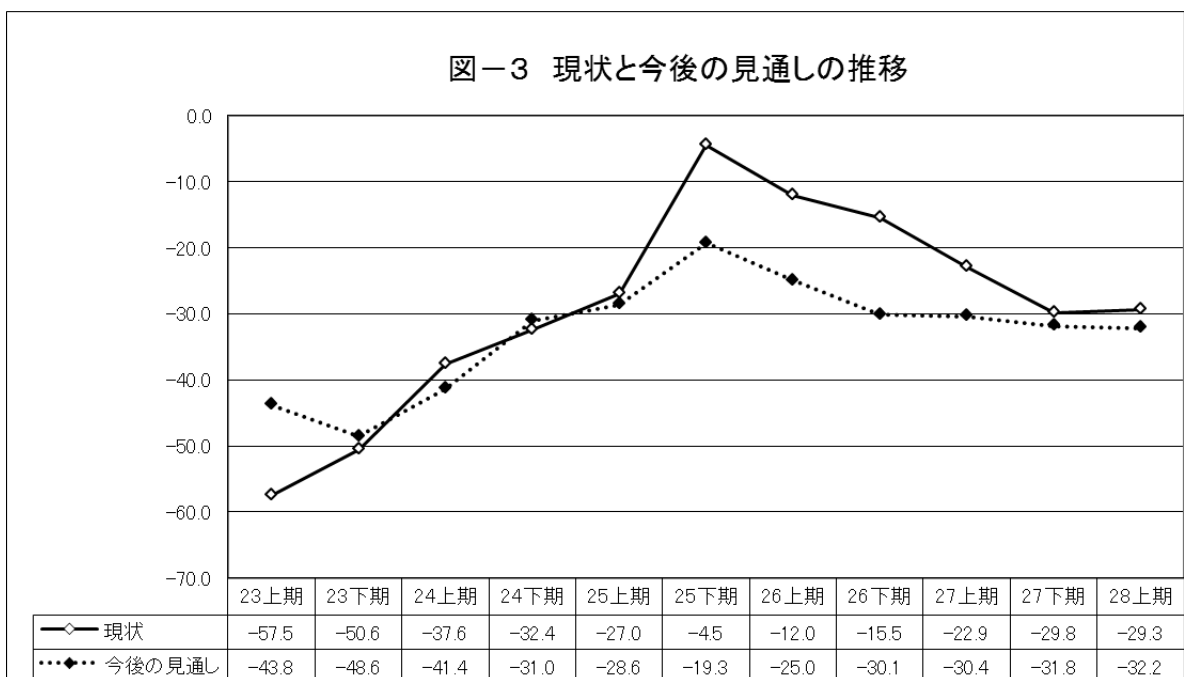
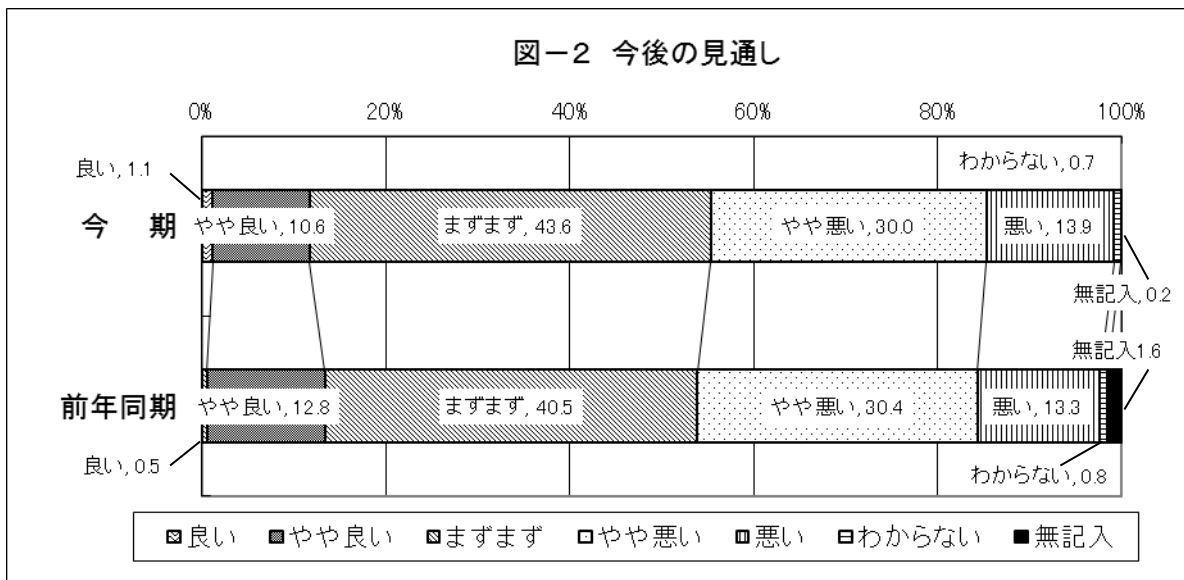
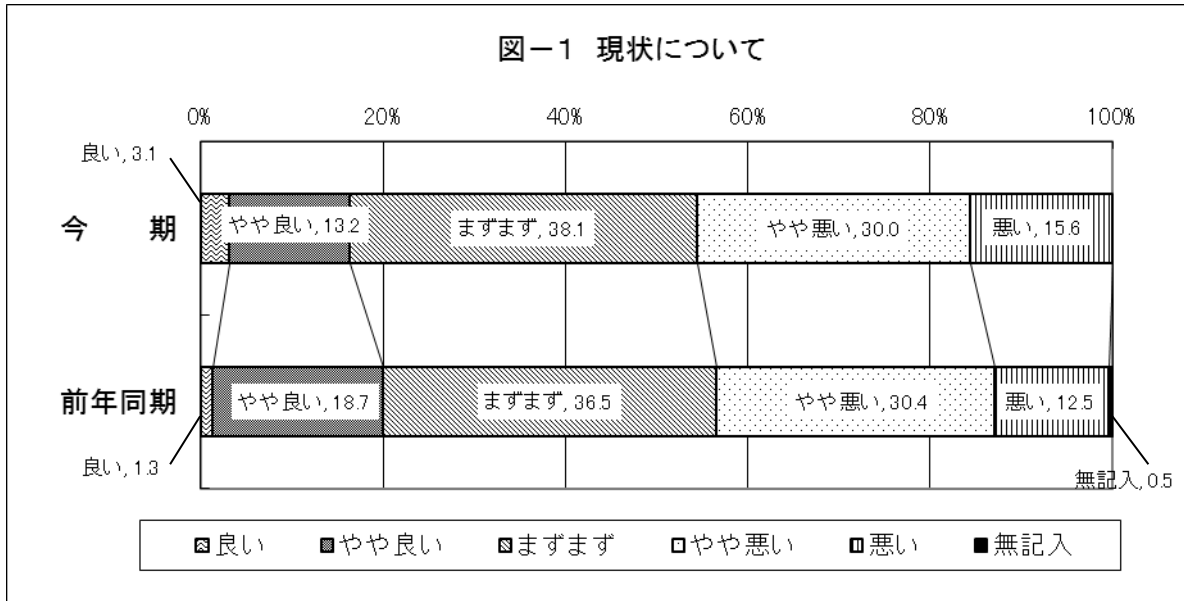
●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は、11.7%(前回10.4%:前年同期13.3%)、「やや悪い」「悪い」は43.9%(前回42.3%:前年同期43.7%)となった。

DI値は、 $\Delta 32.2$ (前回 $\Delta 31.9$:前年同期 $\Delta 30.4$)と前回に比べほぼ横ばい、前年同期より1.8ポイント悪化している。

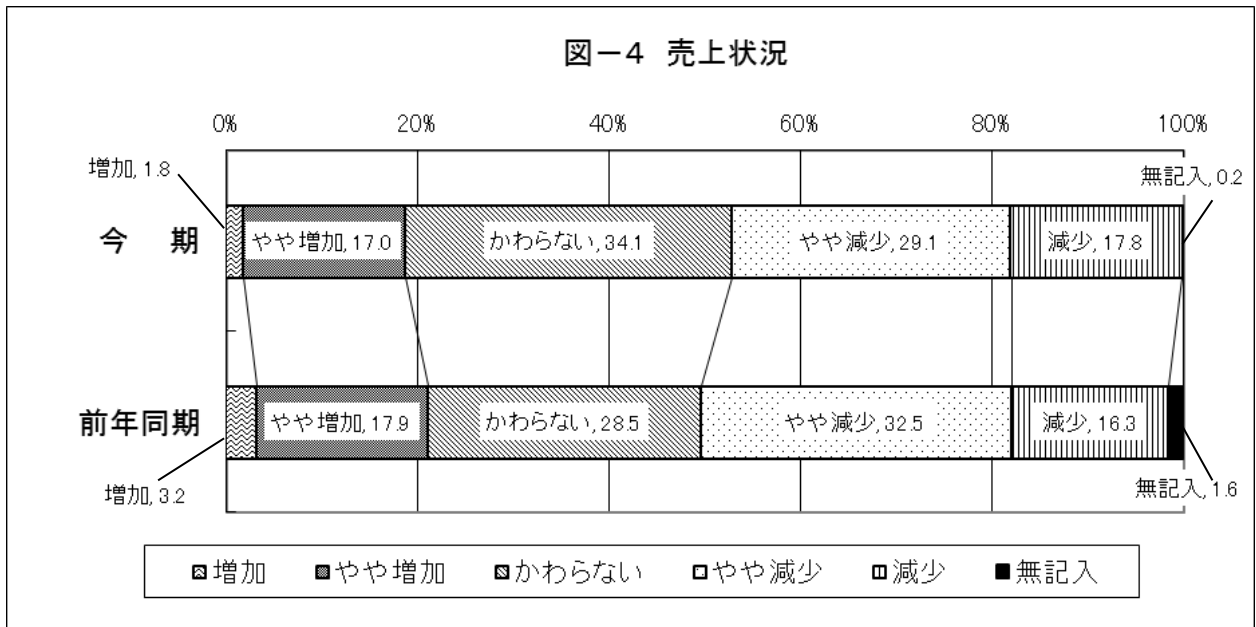
業種別では、製造業DI値 $\Delta 24.2$ (前回 $\Delta 17.1$:前年同期 $\Delta 26.6$)、卸売業DI値 $\Delta 27.0$ (前回 $\Delta 47.0$:前年同期 $\Delta 15.4$)、小売業DI値 $\Delta 65.5$ (前回 $\Delta 63.0$:前年同期

△46.2)、建設業 DI 値△22.7 (前回△21.4 : 前年同期△18.3)、飲食業 DI 値△39.1 (前年△42.9 : 前年同期△45.2)、サービス業 DI 値△24.0 (前回△27.0 : 前年同期△33.3) となった。



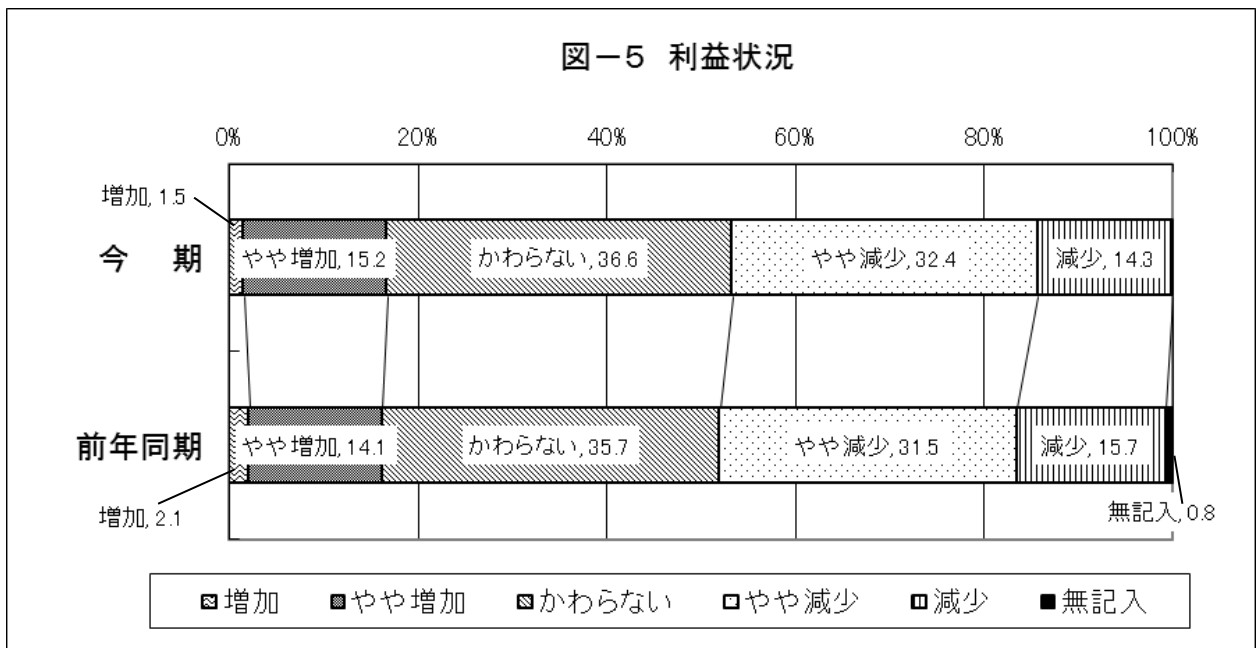
●売上状況について（図－4 参照）

「増加」「やや増加」は 18.8%（前回 20.1%：前年同期 21.1%）、「やや減少」「減少」は 46.9%（前回 48.8%：前年同期 48.8%）となった。DI 値は△28.1（前回△28.7：前年同期△27.7）と前回及び前年同期と比べ、ほぼ横ばいとなった。



●利益状況について（図－5 参照）

「増加」「やや増加」は 16.7%（前回 17.4%：前年同期 16.2%）、「やや減少」「減少」は 46.7%（前回 49.5%：前年同期 47.2%）となった。DI 値は△30.0（前回△32.1：前年同期△31.0）前回より 2.1 ポイント改善、前年同期より 1.0 ポイント改善している。



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	売上・受注の停滞減少 (43.4)	人材育成 (31.3)	設備店舗の狭小老朽化 (23.2)
	卸売業	売上・受注の停滞減少 (53.8)	競争の激化 (46.2)	人材育成 (34.6)
	小売業	売上・受注の停滞減少 (67.9)	競争の激化 (40.7)	設備店舗の狭小老朽化 人手不足 (17.3)
	建設業	売上・受注の停滞減少 (49.2)	人手不足 (45.2)	人材育成 (35.5)
	飲食業	売上・受注の停滞減少 (65.2)	人手不足 (39.1)	人件費の増加 (26.1)
	サービス業	売上・受注の停滞減少 (29.9)	設備店舗の狭小老朽化 (26.9)	競争の激化 (25.4)
	交通運輸業	売上・受注の停滞減少、人手不足、 人材育成、人件費以外の経費増加 (33.3)	設備店舗の狭小老朽化 人件費の増加 (22.2)	競争の激化 売掛・債権回収の悪化 (11.1)
	その他	売上・受注の停滞減少 (40.0)	人手不足 人材育成 (32.0)	設備店舗の狭小老朽化 競争激化 (16.0)
総合	売上・受注の停滞減少 (48.7)	人手不足 (27.3)	人材育成 (26.4)	
前年同期	売上・受注の停滞減少 (42.9)	競争の激化 (27.2)	人材育成 (25.3)	

地場産業—自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 28.1% (前回 17.6% : 前年同期 15.3%)、「やや悪い」「悪い」は 50.1% (前回 47.0% : 前年同期 50.0%) となった。DI 値は△22.0 (前回△29.4 : 前年同期 34.7) 前回より 7.4 ポイント改善、前年同期より 12.7 ポイント改善している。

b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 15.6% (前回 11.8% : 前年同期 15.4%)、「やや悪い」「悪い」は 40.7% (前回 38.2% : 前年同期 50.0%) となった。DI 値は△25.1 (前回△26.4 : 前年同期△34.6) 前回より 1.3 ポイント改善、前年同期より 9.5 ポイント改善している。

●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」は 25.0% (前回 17.6% : 前年同期 15.3%)、「やや減少」「減少」は 46.9% (前回 41.2% : 前年同期 50.0%) となった。DI 値は△21.9 (前回△23.6 : 前年同期 34.7) 前回より 1.7 ポイント改善、前年同期より 12.8 ポイント改善している。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 18.7% (前回 14.7% : 前年同期 19.2%)、「やや減少」「減少」は 53.2% (前回 29.4% : 前年同期 53.8%) となった。DI 値は△34.5 (前回△14.7 : 前年同期△34.6) 前回より 19.8 ポイント悪化、前年同期と比べ、ほぼ横ばいとなった。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 18.8% (前回 17.6% : 前年同期 19.2%)、「やや減少」「減少」は 46.9% (前回 50.0% : 前年同期 46.2%) となった。DI 値は△28.1 (前回△32.4 : 前年同期△27.0) 前回より 4.3 ポイント改善、前年同期より 1.1 ポイント悪化している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL : 0 5 9 - 3 8 2 - 3 2 2 2

FAX : 0 5 9 - 3 8 3 - 7 6 6 7